

四条家のお嬢様は
泥棒猫なのか!?

片思いの○バサが恋人の乱交を見て、
私を肉便器にされて、

そして私の後輩にくれた!!

初体験でプロ級の
フェラチオをする
天然淫乱女!?

片思いの○バサが恋人の乱交を見て、
私を肉便器にされて、そして私の後輩にくれ!!

四条真妃

R18

前回は、翼がどこかに拉致され、

恋人主演のAVを見せられる羽目になった。

映像が終わった後、身体的には解放されたが、精神的にはまだ完全にショック状態である。

正気ではいられない中、彼は行動を起こす…

「いったいなんで渚が真妃ちゃんのことを…」

「渚と会う前に早く真妃ちゃんを探さなきゃ…」

「そもそもこのことはどこだ？」

「動画が終わったせいで暗くてなにも見えない。」

「ボランティア部室かな？」

「灯りを点けなきゃ…」

「ま、ま、真妃ちゃん!?!?!?!」

「やっと起きた、翼くん…へへ…
ずっと私に気づかなかったの?」

「ま、そうなるね…あんな渚を見てしまったら、
私に気づくなんてはさすがない。」

「そして、いつの間にか親友が犯されるの
見ながらオナニーしていた!」

「大丈夫か?
翼くんもずっとギンギンしてるから。」

「ちようどきみを探そうとしている
ところだったが…なんで裸!?!」

「えっと…ま…わ、私も渚の動画を
見ていたから…」

「ムズムズになって…
つい服まで抜いちゃった…」

「そうだな…今信じられないほど硬いんだ。」

「私はもう裸だから…
翼くんもズボンを脱いたら?」

「くっそ! わかった! やってやる!」

「すっげー勃ってる…真妃ちゃん、しゃぶって。」

「いいの!?!?じゃなくて、えっと…なに?」

「今なにをしろと言った?」

「聞いただろう?!?しゃぶれといっている!」

「くそ!渚はなぜか僕がきみと浮気していると勘違いしている!」

「まだ何もしてないのに、

彼女はもう何十人も男とヤッているんだ!」

「同じ部屋で裸になったから、

もう覚悟はできているんだろう?」

「なら早くしゃぶってくれ、このビッチ!」



「うわー、すごい硬くなった。
渚のリベンジポルノに相当興奮してみたみたいね。」

「あれほどの男たちに犯されるのを見たら…
以前にも増して渚の美しさを実感したんだ！」

「普段の渚はもちろん誰も敵わないけど…
あんな感じの渚は見たことがない…」

「そのめっちゃくちやにされながらの笑顔を見たら…
ますます惚れてしまった…」

「…正気が、翼くん？
本当にもっと綺麗に見えた？
あれほどの男に犯されたのに？」

「人の前に裸でお尻を振っている君には
そんなこと言われたくないんだけど。」

「本当の気持ちはバレバレなんだ…
ほら、おっぴやとやれよ！」



「す、すごい、翼くん…本当に硬いんだ！」

「チンポなんて味わったことないけど、翼くんのチンポすごくおいしー！」

「んん…んんふー！」

「なにをグズグズしてる。これをほしかったんだらう？はやく舐めてよ！」

「んん…んんふー！」

「ううか？気持ちいいー！」



「そう、そんな感じで先端を舐めるんだ。」

「翼くんの先端は弱いのかな…」

「そうだ…もっと舌をくねらせて…あああ…」

「初めての割には結構やる…本当に初めてののか」

「あ、当たり前前よ！私をどんな女だと思ってるの？」

「(ひそひそ)それに…こんなことをしたいのは翼くんだけ…」

「なんか言った？」

「な、なにも！(どゅるどゅるどゅる)」

「おおお…真妃ちゃん…
真妃ちゃん…そう、その感じで…」

「くそ…限界だ…ごめん、渚…渚…」

「真妃ちゃんにイカされる…出る…！」



「んんんふ！出た！」

「はあ…はあ…すごい…」

「やるじゃないか…
最高のフェラチオだった…
渚よりうまいかもしれない！」

「でも…まだたりない。

動画の渚がしたこと考えると…」

「きれいに舐めてまた硬くしてくれ。」

「翼くん…おいしい…♡♡♡」



「なにその恋する乙女みたいな顔、この淫乱女め！」

「へへ…♡」

「もっと乱暴にやればその生意気がどれほどもつのか…
そう、その感じで…」

「口開ける！」

「んんんふー♡」



「結構深くに入ったな。僕を満足したいなら、
これぐらいはしなくちや、真妃ちゃん！」

「んんふ！♡」

「でかい口の割には喉がめっちゃきつー」

「んんんうう……んふ……
気に入っていて嬉しい♡」



「すっげー…」

眞妃ちゃんとなら遠慮しなくていいみたいだな？」

「渚にイラマチオをしてもらいたかったけど、嫌われるんじゃないかとずっと思っていたんだ！」

「でも眞妃ちゃんとなら、やっところな感じで思いつきり喉を犯すことができり！」

「んんんふ！♥んんんふ！♥んんんふ！♥」

「やっば…出たばかりなのにまた出る！」



「んんんふー!♡」

「あああああ!♡」

「翼くん!♡♡♡」

「全部飲んじやう!♡♡♡」



「はあ…はあ…すごかった…でもまだたりない。」

「真妃ちゃんと本気でセックスしてみたかったんだけど、このままじゃ絶対に満足できない…もし…」

「もし…?」

「そう…そうだ!
あんな感じな真妃ちゃんなら絶対もっと綺麗になれる!」

「あ、あんな感じ?それって、どういう感じ?」

「動画の渚と同じ!そんな風に輪姦されたら、女としての魅力が開放されるに違いない!」

「わ、わ、私が!?あの渚みたいに?」

「複数のチンポで!?頭大丈夫なの、翼くん!」



突然、何の前触れもなく、
ボランティア部室のドアが開いた！

「いや、マジだ！」

本当に真妃ちゃんが輪姦されながらの顔を見たいんだ！」

「よ、ツンデレ先輩。」

いるか？うわ！なにも見てならー！」

「優、待って！これは違うのー！」

「あ、石上さん。ちょうどよかった。」

このビッチを懲らしめてるところだった。手を貸してくれるかな？」

「優、これは勘違い！」

翼くんの言う通り…

今日はいけない女だった…」

「でも、優なら懲らしめてもらってもいいかな…」

「ツンデレ先輩…」

本当にこれでららですか？

彼のためにいまでするんですか？」

「なんだそれ!?おい、いいかげんにしろ！」

「さもないと…」

「真妃ちゃん、これはチャンスだ！」

渚と勝負したいなら、

やるべきことわかってるだろう？」

「翼くんがそれを望むなら、私も…」

「翼くん好みのおんなになれなかったら…私、耐えられないわ…」

「石上さん、そのぬれぬれのマンコを見てよ。」

「無理矢理ならあんなに濡れないと思うんだろう？」

どう見ても、これは真妃ちゃんが

仕掛けてことなんだよ！」

「ふん！べつにだれにも懲らしめていいってわけじゃないけどね…」

「いんなときも素直になれないんですか、ツンデレ先輩!？」

「手伝ってくれないと困っちゃうわよ…おねがい、優…えへへへ」



「ま、そう言われるとやるしかないみたいですね…」
(ジー)

「真妃ちゃん、僕は後ろでやる。
石上さんにいいサービスをあげてね。」



「うわ…口の中がすい〜濡れたい気持ちSSS〜」

「優のチンポも悪くないわ！でもやっぱり翼くんの方がSSS〜」

「んんふ…んんぐ…ぐちゅぐちゅ」

「それって、ただの偏見じゃないですか？」

「真妃ちゃんのオマンコもすごく濡れてる。

こんな風に両方から攻められるのを期待したんだらう？」

「こんなに濡れているんだから、
初めての挿入も痛くないだろうね、
このビッチ！」

「はい…やっ翼翼くと「っ」になれる…」

「おい、僕がいることを忘れないでください。もっとしゃぶれよー」

「もちろんわ。(ぐちゅぐちゅ)

そうでなきやお仕置きにはなれないからね…」

「SSS〜」

「ああああ…!!♥
翼くんは想像通りガッチガチに硬い!!♥」

「手掛けんはいらないみたいから思いっきり犯してやる!!」

「好きな人に処女を奪われておめでとうございませう、ツンデレ先輩。
でも休んでいるひまはないんですよ!くらえ!!」

「んんんぐ!んんんぶ!!」

「いいぞ、石上さん!喉の奥にチンコを押し込んだ途端
眞妃ちゃんのおマンコがいきなり締まった…
うおおおお!!」

「やっぱ…
このイラマチオはめっちゃくめっちゃ気持ちいい…
このままじゃもたない…!!」

「く…僕も…」

「遠慮しないで…私の中に出して、二人とも!!」

「先輩のイラマチオでイキそう！」

「くう…」

眞妃ちゃんの処女子宮に僕の精液をぶち込んでやる！」

「そう…出して！私もいく！
二人共の精液が私の中ですごく熱い…！」



「やるな、石上さん。」

「はあ…はあ…」

「えっと、ありがとう、ツンデレ先輩。」



「3Pがこんなに気持ちいいとは思わなかったわ…はあ…」

「真妃ちゃん…すごくセクシーだったよ！」

「真妃って、すごく…なに！翼？」

「あんたが帰った後に部屋がちゃんと閉まってるのを確認してきたけど、これってどういうことなの!? そんなにまた浮気したかったの?」

「で、どうだった?」

「この超セックスシーの真妃って本当にそんなにすごいなの?」

「やっぱり彼女のほうが好きなんですよ?」

「いっそこで別れた方がいいんじゃない?」

「ちがう!! 渚! 愛しているよ!」

「また口ばっか…」

「自分のチンポが他の女の汁でかけてるのにそんなことを言うなんて…あんたって最低!」

「ちがう、渚! ちゃんと聞いてくれ、お願い!」

「真妃ちゃんとした後、ますます僕には渚しかないって、今まで以上に確信したんだ!」

「確かに、真妃ちゃんはすごくいい女けど、

動画のきみの顔は格が違った!

手の届かないところにいるような気がして、

もう二度とそんな思いはしたくない!」

「僕を見るろ！真妃ちゃんの中に出した後、
渚が入ってきた途端すぐに勃起しちゃった！」

「もう条件反射のレベルでなんだ！」

それを証明するためなら、どんなことでもする！」

「動画で言っていたことをそれなりに考えた。

満足するためにもいつでも輪姦セックスをしたいなら、それでいい。」

「乱交パーティーの手配もする！だから、

もう二度と気を変わらないでくれ！」

「僕から離れないでくれ！」

「翼!!♥️ 本当に…!?♥️」

「私も愛してるよ!!!♥️」

「私はずっと心配で、
怖かった…」



「実は…あの動画を撮る前に…
私が妊娠していることを知った…」

「動画の前だから、
あの男たちからってことはないでしょう…
そして以前にセックスした男はただ一人…」

「なに!?それって…僕がパパになった?まじか!?!」

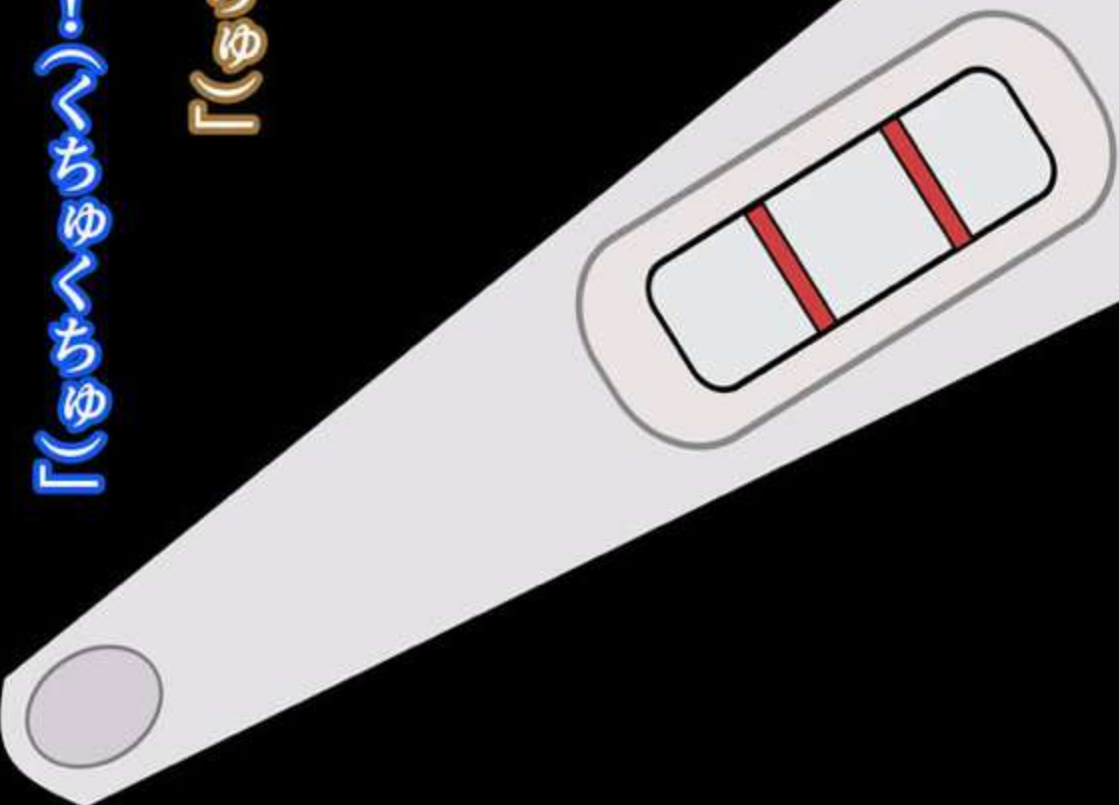
妊娠検査

「渚!!!」

「翼!!!」

「んんん!んんんふ!(くちゅくちゅ)」

「やあ!ああああ!あああああっ!(くちゅくちゅ)」



真妃と石上を無視してセックスをはじめた。

「はあ…結局仲が以前よりもよくなったじゃないですか!?!
そして赤ちゃんまでできちゃったなんて…翼くんはもうパパになった…」

「やはりこうなるわね…これで全部がおしまい…」

「ま、いらいこともあったんでしょ、ツンデレ先輩。
少なくとも、彼とセックスすることができたしね。」

「わああああ!優!優!優!優!優!優!わああああ!」

「よしよし…思う存分に僕の肩で泣けばいいです。」

「わああああ!優!もう二度とそばから離れないからね?
そのチンポで私を大切にしてくれるよね?」

「ええええええええええ?」

そうして、石上と真妃はもっと仲良くなった。

今回の勝敗…みんなの勝利

つづく…

奥付

依頼者:

AnimeFan71109 (@animefan71109)

画家:

N__u____t (ピクシブ: 39838034)

作者:

AnimeFan71109 (@animefan71109)

編者:

Hennojin (@Hennojin)

声優:

四条真妃 - めいにゃんパフェ (@MeinyanParfait)

柏木渚 - 氷上のあ (@Noa_Hikami)

動画家:

Shikikat (@Shikikat7)